

学校経営方針

京都市立西院小学校

1. 学校教育目標

自ら考え行動し、夢に向かって進む心豊かな子どもの育成 ～一人一人が輝く西院の子～

超スマート社会と言われる「Society5.0」の社会では、「人工知能（AI）、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先進技術が高度化し、社会の在り方が劇的に変わる。」と言われている。このような社会が目前に迫っている中で、共通して求められる力として、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力 ②科学的に思考・吟味し活用する力 ③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力を育成していかなければならないと提言されている。

学校教育目標実現に向け、児童一人一人の「自己指導能力の育成」をねらいとし、「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」という生徒指導の三機能を全教育活動の基盤とし、取組を進めていく。そして、子どもたちが、「教室に居場所がある。」「支えてくれる仲間がいる。」「わかってくれる大人がいる。」「学校は、安心・安全な場所である。」と感じられるような学校にしていきたい。

2. 目指す学校像 子どもが毎日楽しく通える学校

3. 目指す子ども像

- ・自ら進んで学習し、互いに高め合う子（知）
- ・互いに認め合い、自分も友達も大切にする子（徳）
- ・身も心も鍛え、命を大切にする子（体）

4. 今年度の重点 児童の自己指導能力を高める。

5. 目指す子ども像の実現に向けて今年度特に力を入れたい取組

新学習指導要領完全実施の前年度であるため、授業においては、「主体的、対話的で深い学び」となるよう、「思考ツール」や「知識構成型ジグソーフ」等の手法を用い、自分のおもいをしっかり伝え、互いに話し合い、高め合う力を伸ばしていく。また、小中一貫教育や幼小連携など校種間連携を意識した取組を進め、ポスター発表等を取り入れた探究的な活動を設定し、「言語活動の充実」を図る。

その中で、以下の点に特に力を入れて取り組みたい。

- （1）「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」という生徒指導の三機能を基盤にした教育活動
- （2）思考ツールや知識構成型ジグソーフを用いた「主体的、対話的で深い学び」となる授業実践
- （3）「西院の子 心でつなぐ5つのやくそく」の実践



6. 目指す教職員像 教育者としての責任を自覚し、確かなビジョンと力量を持つ教職員